



# 河小だより

四日市市立河原田小学校  
第11号 2018. 9. 28

## ●運動会、ありがとうございました!●

順延したことでご迷惑をかけましたが、たくさんの来賓並びに保護者の皆様に参観いただき、9月23日(日曜日)、運動会を無事開催できました。誠にありがとうございました。

今年のテーマは「力を合わせて 河っ子スマイル」でした。子どもたち全員が笑顔でやりきった運動会でした。よく頑張りました!

運動会を見て、いつも思うことですが、子どもたちの徒競走や団体競技で、たとえ失敗しても、たとえ差が開いていても、最後まで走りぬく姿。真剣な顔がそろい、動きがそろい、力を合わせ、踊りきるダンス。順位、勝ち負け、出来・不出来、得意・不得意にかかわらず、競技や演技に全力を尽くす姿は、見ていて感動します。

運動会のテーマは、運動会の時だけのテーマではありません。日々の学校生活の中で、子どもたちにいつも指導していることです。特に、今年度は「力を合わせて」という言葉があります。257人の子どもたちが、力を合わせて活動し、笑顔になれることはなかなかありません。今年度の運動会は、まさしく257人の子どもたちが「笑顔で」「力を合わせ」、やりきった運動会だったと思います。いい経験だと思えます。

また、保護者の皆さんにも感謝します。最後まで応援していただいたことはもちろんですが、細かな約束事を守っていただき、整然とした運動会の雰囲気を作っていただいたと感謝しています。加えて、運動会終了後の後片付けにPTA役員の方々だけでなく、多くの方に協力していただきました。子どもたち、保護者の皆さんで創り上げた運動会だと強く感じています。

本当にありがとうございました。



## ●テント購入についてのお礼●

運動会当日、児童席のテントを見ていただいたと思います。

この夏の酷暑で、運動会時の熱中症が危惧されていました。その予防策ということで、PTA児童活動費よりテントを購入していただきました。大変過ごしやすかったと子どもたちが言っています。ありがとうございました。



## ●「全国学力・学習状況調査」結果より●

### ① 学力の状況より

本年度は、例年実施される算数科、国語科に加えて、理科も実施されました。

【学力状況調査では、A問題（主として知識）B問題（主として活用）があります】

★ 国語の知識を問うA問題の正答率及び活用力を問うB問題の正答率は、全国を下回る結果となりました。

★ 算数の知識を問うA問題の正答率は全国を上回る結果であり、活用力を問うB問題の正答率は、全国をやや下回る結果となりました。

★ 理科は全国と同等の結果となりました。

【全体的にみた強みと弱みから】

★ 国語A問題では「文の中で漢字を使う」問題が、全国を下回る結果となりました。また、「文章全体の構成の効果を考える」ことや「目的に応じて必要な情報を捉える」の問題も、下回る結果となりました。

★ 一方で、国語B問題では「文章全体の構成の効果を考える」ことや「目的に応じて、文章の内

容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」ことは全国正答率をかなり上回る結果となりました。また、「話し手の意図を捉えながらか聴き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」ことや「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む」問題は、下回っています。

- ★ A問題とB問題で、同じ出題趣旨の問題であっても、一方は全国正答率より低い、全国正答率が高いという結果が出ています。単純に結果から判断はできませんが、今後も「読みを深める力」「書く力」は引き続き授業を充実させ、子どもたちの力を伸ばしていくつもりです。一方で、「何が書かれているのか、何を問われているのか」といったことを確認しながら読むことに力を入れ、関連付けて考える力の伸長に尽力したいと考えます。
- ★ 算数A問題では、14問中13問が全国と同様か上回る結果となりました。但し、「空間の中にあるものの位置を表現する」ことは苦手であることが分かりました。
- ★ 算数B問題では、記述式の問題が「弱み」として明らかになりました。言葉や数値、式を使って説明する力に課題がみられました。
- ★ 今後も、線分図や数直線図などを使って問題場面を理解することを大切にしながら授業に取り組んでいきたいと考えます。
- ★ 理科は、「生命」領域の「野鳥のひなの様子の観察、人の腕が曲がるしくみ」、「地球」領域の「流れる水の働き、天気と水位の関係」の問題に課題がみられました。

## ② 学習・生活の状況（児童質問紙の結果から主な質問を抜粋）

### 【全国と比べて肯定回答の割合が高い質問（強み）】

- ★ 今住んでいる地域の行事に参加していますか。
- 子どもたちには、地域の行事への参加や地域の方々との交流の機会が多くあることが伺えます。学校の教育活動では勿論のこと、地域においても、他者とのかかわりの中で、より良い行動をすることの大切さを学んでいると考えられます。

### 【全国と比べて肯定回答の割合が低い質問（弱み）】

- ★ 自分には、よいところがあると思いますか。
- ★ 将来の夢や目標を持っていますか。
- ★ 算数の勉強は好きですか。
- ★ 算数の勉強は大切だと思いますか。
- 子どもたちは自分自身に自信が持てない傾向があることが伺われます。日々の子どもの姿を見てみると、素敵な姿がたくさんあるのに、それを認識できない現状があると推測します。教師から常にメッセージを送る必要性を感じます。
- また、勉強する意味って何かを教師は伝えなければならないと感じています。
- 直接、算数の勉強が生活と結びつくことは高学年になる程難しいかもしれません。しかし、解決するのが難しい問題に出会ったとき、仲間とともにいろいろな考え方を出し合いながら、解決をしていくという過程は、子どもたちにとって面白いはずで、そのような授業を多く創造し、子どもたちが「勉強は好き」と思っていることを目指していきたいと考えます。

## ③ 新たな学びの場について

### (1) 学び合う授業の推進

ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、自分の考えをもとに比べたり伝えたりすることを大切に授業を進めます。

### (2) 書く活動の充実

「授業の中で、キーワードや字数制限を行う等、条件に応じて書くことができる力をつけていくようにする」「乗法・除法の意味を定着できるように、授業の中で、実物・絵・図・式・言葉を用いて、説明する学習活動を今よりさらに多く取り入れる」等、算数科・理科であっても、国語科・社会科であっても、「書く」活動に徹底して取り組みたいと考えています。

### (3) 家庭学習の充実に向けて

例年、家庭で毎日継続して学習する習慣をつけるために、全学年で「読み・書き（漢字や作文、日記）・計算」などの宿題を毎日出しています。加えて、プラス1学習も勧めています。

どのような自主学習をすればよいか教師が提示したり、友だちのよい取り組みを紹介したりしながら、自主的に考えて学習する習慣を身につけさせていきます。

特に、高学年は、家庭学習がやらされ感を伴うものでなく、自主的・主体的に行えるよう、今自分に必要な学習は何なのかを個別に意識させながら取り組むようにしていきます。